

六ヶ所核再処理工場の稼働計画は撤回されなければならない

六ヶ所核再処理工場稼働と核拡散を憂慮する大韓民国国会議員ステートメント

2006年4月日本政府は使用済み核燃料400トン(400,000kg)を使って、六ヶ所核再処理工場の本格的な試験稼働を開始する計画だ。この作業で日本は2年間以内にプルトニウム4トン(4,000kg)を抽出し、2011年からは毎年使用済み核燃料800トンを再処理してプルトニウム8トンを抽出するようになることになっている。

このようなプルトニウムは約1,000個の核爆弾を作ることができる莫大な量であり、北東アジア地域の安定に害になることはもちろん、世界核不拡散体制に深刻な脅威をもたらすと思われ、憂慮の念を禁じ得ない。

私たちは次のような3つの理由で日本政府に対して六ヶ所核再処理工場の稼働計画に対する見直しを促すものである。

第1に、この計画は、国際的な核不拡散努力の根幹を揺すぶることになるだろう。日本の核再処理工場の稼働とそれによるプルトニウムの保有は中国、イラン、北朝鮮などにとってプルトニウム保有に対する強い誘惑と口実を提供するようになるということを認識しなければならない。

第2に、この計画は、北東アジアの国々の間で新しい軍備競争を触発するようになるだろう。日本政府はプルトニウムを単に核燃料として使う計画だと言うが、最近の日本の軍事大国化を憂慮する北東アジア周辺国に「核武装意図」があるのではないかと言う疑念を提供することになり得ることを深刻に憂慮しなければならない。

第3に、この計画は、日本はもちろん、北東アジア全体に深刻な核汚染の恐怖を抱かせることになる。六ヶ所核再処理工場は放射能で汚染された期待と廃液を大気と海にそのまま排出するようになり、これはすなわち北東アジアの海洋汚染につながるだろうことを深刻に憂慮しなければならない。

2004年に韓国の科学者が研究目的に極少量のウラン濃縮実験をした際、日本政府が「韓国で六ヶ所村のような本格的な再処理工場が稼働されることを願わないし、国際社会はこんな国を簡単に信頼することはできない」と深刻な憂慮を示す主張をしたことを日本政府は想起すべきだろう。

もちろん日本が非核政策を維持するか否かは日本政府の政策選択の問題だが、韓国を含めた「周辺国の不安」と「再処理施設稼働」という誘惑を払い落とすことは難しいということを理解しなければならない。

私たちは日本政府が平和を望む自国民は勿論、北東アジアと世界が伝える憂慮の声に真剣に耳を傾けて六ヶ所核再処理工場の稼働計画を直ちに見直すことを心より要請する。

また、韓国政府は北東アジアの平和がなければ、韓半島の平和も遥かに遠いものにならざるを得ないという点で、日本政府の六ヶ所核再処理工場稼働計画について決して黙認せず最善をつくさなければならない。

2006年2月3日
国際核軍縮議員ネットワーク
(PNND) 韓国支部

